

## 公共施設の劣化診断基礎調査の結果について

### 1 調査目的

建物は劣化により性能・機能などが低下し、大規模な改造、改築または除却が必要になる状態になると予測されるまでの年数を目標耐用年数と言います。鉄筋コンクリート造の建物の目標耐用年数は50年から80年と言われており、市では60年を標準として、小平市公共施設マネジメント推進計画に基づく「更新等の適否の判断」を行うべき時期と捉えてきました。

しかし、実際は施工の品質や使用状況により劣化の状態は異なることから、60年に近づく建物について、個別に劣化診断基礎調査を行うこととしました。

劣化診断は、建物の一部をサンプル採取し、コンクリートが設計当時の強度を確保しているか、また、中性化<sup>1</sup>がどの程度進んでいるかを調査するものです。市では、コンクリートの中性化進行状況をもって、建物の実際の目標耐用年数がどのくらいかを推定することとし、延命化することが可能なかを見極める資料とします。

なお、ここでいう劣化診断の目標耐用年数は、建物の躯体に関するものであり、外壁、内装、設備機器の耐用年数とは異なるものです。

### 2 対象施設

- (1) 小平第十三小学校
- (2) 小平第一中学校
- (3) 小平第二中学校
- (4) 小平第四中学校

### 3 調査内容

#### (1) コンクリート強度の調査

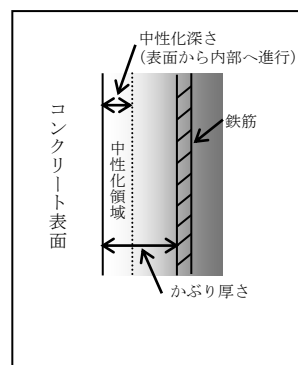
調査対象建物からコンクリートを採取し、圧縮強度試験を行い、現在のコンクリート強度を調査しました。(耐震診断を実施している施設については、耐震診断時のデーターを利用しています。)

#### (2) コンクリートの状況等の調査

調査対象建物の構造体(主に柱・梁)のコンクリートをはつり、中性化深さ・かぶり厚さを調査しました。

#### (3) 鉄筋腐食状況の調査

鉄筋の種類・径及び腐食の状況を調査しました。



<sup>1</sup>大気中の二酸化炭素がコンクリート中に侵入していき、セメントが水と反応してできた水酸化カルシウムと反応して炭酸カルシウムとなり、表面部分から、コンクリートをアルカリ性から中性に変えていく現象です。また、中性化の進行状況を参考に耐用年数を推測していますが、中性化自体はコンクリートにとって有害な訳ではなく、鉄筋周辺のコンクリートが中性化しても、酸素と水分が存在していなければ、鉄筋が腐食することはない、中性化の進行によってただちに危険を示すものではありません。

## 4 調査結果

調査結果については別表1のとおりです。

## 5 調査結果の評価

### (1) 小平第十三小学校

校舎及び体育館について、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は、校舎及び体育館共に健全な状態を保っており、目標耐用年数は80年以上と推定されます。

### (2) 小平第一中学校

校舎について、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は、健全な状態を保っており、目標耐用年数は80年以上と推定されます。

体育館については、平成5年に建設され比較的新しいことから今回の調査には含んでおりません。

### (3) 小平第二中学校

校舎について、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は、健全な状態を保っており、目標耐用年数は75～80年以上と推定されます。

体育館についても、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は健全な状態を保っており、目標耐用年数は80年以上と推定されます。

### (4) 小平第四中学校

校舎及び体育館について、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は、校舎及び体育館共に健全な状態を保っており、目標耐用年数は80年以上と推定されます。

## 6 今後の対応

小平市公共施設マネジメント推進計画に基づく「更新等の適否の判断」を行うに当たっては、本調査の結果のほか、更新等または延命化に伴う利点と課題、当該施設の利用の将来動向、当該施設の近隣の公共施設の状況等、総合的な観点により進めていきます。

別表1 調査結果

No.	施設名		建設年		延床面積 (㎡)	階数 (地上/ 地下)	耐震診断	補強の有無	コンクリート圧縮強度		鉄筋腐食度	コンクリート中性化深さ			
			西暦	和暦					設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		経過年数 (年)	かぶり厚さ (mm)	中性化深さ (mm)	
1	第十三小学校	北校舎Ⅰ期	1968	昭和43	960	3/0	済	有	17.7	19.8	I~II	50	45.5	12.3	
		北校舎Ⅱ期	1973	昭和48	234	3/0			17.7	20.8	II	45	49.0	22.0	
		中校舎	1968	昭和43	2,031	3/0			16.4	16.4	II	50	47.3	10.0	
		南校舎Ⅰ期	1976	昭和51	858	2/0			18.4	18.4	II	42	45.0	2.8	
		体育館	1974	昭和49	764	2/0			14.4	15.0	II	44	46.5	15.3	
2	第一中学校	北校舎Ⅰ期	1968	昭和43	1,936	4/0	済	有	17.7	23.9	I~II	50	49.5	0	
		北校舎Ⅱ期	1976	昭和51	420	3/0			17.7	23.0	I~II	42	34.3	8.8	
		南校舎Ⅰ期	1979	昭和54	1,816	3/0			20.6	28.8	I~II	39	30.0	0	
		南校舎Ⅱ期	1980	昭和55	1,529	3/0			20.6	24.0	I~II	38	46.8	8.3	
3	第二中学校	北校舎Ⅰ期	1975	昭和50	1,826	4/0	済	有	19.9	23.2	I~II	43	42.8	0.8	
		北校舎Ⅱ期	1977	昭和52	1,432	4/0			19.9	23.2	I~II	41	40.8	1.3	
		渡り廊下	1977	昭和52	281	4/0		有	—	20.6	31.9	I~II	41	27.0	0
		南校舎Ⅰ期	1977	昭和52	1,438	4/0			20.6	27.6	I~II	41	34.8	1.0	
		南校舎Ⅱ期	1978	昭和53	2,347	4/0			20.6	27.6	I~II	40	22.8	0.8	
		体育館	1967	昭和42	745	2/0			14.7	17.0	I~II	51	57.0	0	
4	第四中学校	北校舎Ⅰ期	1967	昭和42	1,025	4/0	済	有	18.0	24.0	I	51	35.8	7.5	
		北校舎Ⅱ期	1970	昭和45	360	4/0			18.0	23.9	I	48	32.0	10.0	
		北校舎Ⅲ期	1970	昭和45	191	4/0			18.0	19.7	I	48	36.5	0	
		北校舎Ⅳ期	1973	昭和48	1,291	4/0			16.7	16.7	I	45	53.8	0	
		北校舎Ⅴ期	1981	昭和56	132	4/0			21.0	32.0	I	37	32.8	1.3	
		北校舎Ⅵ期	1991	平成3	1,165	4/0	—	—	新耐震基準		I	27	31.8	0.8	
		南校舎Ⅰ期	1965	昭和40	879	3/0	済	有	18.0	33.2	I	53	41.8	9.0	
		南校舎Ⅱ期	1965	昭和40	667	3/0			18.0	32.1		53			
		南校舎Ⅲ期	1967	昭和42	582	3/0			18.0	27.3	I	51	40.3	8.8	
		南校舎Ⅳ期	1969	昭和44	586	3/0			18.0	29.9		49			
体育館	1969	昭和44	745	2/0	—	—		18.0	21.4	I	49	40.0	5.0		

## 鉄筋の腐食度判定

I	黒皮の状態、又は錆は生じているが全体的に薄い緻密な錆であり、コンクリートに錆が付着していない。
II	部分的に浮き錆はあるが、小面積の斑点状である。
III	断面欠損は目視では認められないが、鉄筋の全周辺又は全長に浮き錆が生じている。
IV	断面欠損が生じている。

出典:建築物修繕措置判定手法